



キーパーソンとその役割

- **岩田 章氏(本人)**
生産者と学校給食調理場を繋ぐコーディネーターとして、営農組合や個人農家等をこまめに一軒一軒訪問し、地場産野菜の給食利用を促進。
- **浜谷 美智代氏(滑川市学校給食共同調理場 栄養教諭)**
共同調理場の栄養教諭として学校給食の運営に携わり、食育推進のために地場産野菜の給食での活用促進を先駆的に推進。

注目すべき特徴及び効果

- 滑川市が、生産者と調理場との間を調整する専任職員を農業公社に配置したこと
- 岩田氏が、生産サイド及び調理場の課題、ニーズに対して細やかに対応し、令和元年度の滑川市学校給食の地場産率62.9%、使用品目数56品目達成に大きく貢献していること
- 岩田氏が、児童生徒への栽培指導、食育等へも積極的に取り組んでいること

今後の展開

- 滑川市の学校給食の年間地場産使用率65%(重量ベース)の達成
- 児童生徒が野菜づくりの魅力を知り、将来、地域農業の担い手となること



審査委員の評価

給食で地産地消を進めるためにコーディネーターが一番重要であり、それを個人として専任でやっていることが評価できる。各地でこのような方々が登場すれば地産地消が進むと考える。



株式会社 筑前町ファーマーズマーケットみなみの里

福岡県朝倉郡筑前町

ピンチをチャンスに! いま、いなが新しい

取組の 概要

- 株式会社 筑前町ファーマーズマーケットみなみの里 (以下「みなみの里」) は、食と農をテーマにした直売所・加工所・農村レストランを併設した地域活性化の拠点として、筑前町の農産物に徹底的にこだわり、加工品の開発、学校給食への納入、農をテーマとしたイベントの開催による農業への理解醸成等の取組を通して地域に活力をもたらしています。

取組の きっかけ・経緯

- 地域の過疎化が進み、人口減少対策として「自分たちが作る農産物を販売する場所をつくり、地域の拠り所となる施設としたい」という住民の要望を受け、筑前町が「食と農をテーマとした地域活性化の拠点施設」として、平成21(2009)年にみなみの里を整備しました。当初は野菜や果物の出荷量が少なく、生産量の多い「米・麦・大豆」＝「加工に適した農産物」という特性を活かし、地域ぐるみで6次産業化に取り組むため、直売所に加工施設を整備し、地域全体で利用を促進する体制を整えました。

地産地消のスキーム

